

応援特集



横浜市長 林 文子さん

林 文子 (はやし・ふみこ) 2009年に当選した横浜市初の女性市長。自動車販売の営業職で実績を積み、03年にBMW東京社長、05年からダイエー会長兼CEO、08年から日産自動車執行役員、東京日産自動車販売社長を歴任。都立青山山卒。東京都出身。64歳。

今回の地震で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

横浜ベイスターズには、震災後、横浜スタジアムと共同で横浜市の義援金募金に寄付をいただきました。それ以外にも、全ての選手が街頭で、またスタジアムで募金活動をされていきますし、選手の中には、個人的に寄付をされている方もたくさんいます。

そして今年3月3日に行われた東日本大震災復興支援試合では、被災地から横浜市の一時避難所に避難されている方々を横浜スタジアムに招待いただき、被災者代表として高校1年生の男子が始球式を行うなど、さまざまな貢献をいただいています。スポーツは人がつながっていくための大事なものです。これまで以上に本当に感謝しています。

私は子どもたちに一流のプレーを間近で見たい。プロの球場でレギュラーを取る人は、これだけの野球人口の中で、針の先くらいの確率。そういう人たちこそ私たちを出会わせたい。子どもたちと一流の人と出合い、刺激を受けるというものは何ものにも代えられない経験です。だから、ぜひ、横浜に横浜入

子どもに一流見せて

今年はおもったもったでチームを盛り上げて行きたいと思っています。たまたま開幕前に市営地下鉄と横浜ベイスターズの共同企画で、関内駅までの往復乗車券が付いた「横浜ベイスターズ応援チケット」を売り出しました。横浜市の地下鉄がこのようにプロ球団との企画を行うのは初めてです。今までは、市を挙げてやっていた情熱が足りなかった。今年は先頭に立ってプロチームを応援していきます。

被災地の皆さまをこの横浜からしっかりと応援していくためにも、横浜ベイスターズの活躍を期待しています。

東日本大震災で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。発生当時、横浜スタジアムでは、たまたまオープン戦の最中でした。施設が被害を受けることなく、観戦中のお客さまをけがなく誘導でき、安心いたしました。

今こそ
君達!!

真剣さを見せ感動を

これが感動につながっていきます。勝負は勝つ方がいいのは確かですが、みんなで一つの目標に向かい、結果ではなくて、そのプロセスで一生懸命やる姿を選手たちには是非見せてもらいたいです。12球団すべてがいうシーズンであってほしいという、あなさまです。そうしたらスピリッツを見せていくと、東日本にもナイターが戻る5月には、多くのお客さまが、見に行つて元気になると思うてくださるでしょう。プロ野球はそういう面での復活があり得ると思います。

今年のベイスターズの選手からは、例年以上に全力でプレーしている感じを受けます。ベンチから飛び出して守備位置に就いていく姿もそうですが、全力で取り組んでいる姿は、きれいで美しい。ずっとやり続けることが必ず来ている人に何かを伝えることができます。

横浜スタジアムでは、オフの間に人工芝を張り替えました。偶然、こういう時期と重なりましたが、新しいグラウンドが選手の意気込みを発露する舞台になっていただければ、われわれもありがたいと思います。



横浜スタジアム社長 鶴岡博さん

鶴岡 博 (つるおか・ひろし) 1976年に若葉運輸社長(現最高顧問)。横浜青年会議所理事。事業時代の77年に横浜スタジアム設立発起人となり、設立後から取締役。2000年に同スタジアム社長に就任。横浜JAZZ協合理事長。日大卒。横浜市出身。71歳。

はい上がる姿を力に

このたびの東日本大震災で、何となくになりました。被災された地域の皆さまに心からお見舞い申し上げます。

勝利

加地隆雄

横浜ベイスターズ 球団社長

加地 隆雄さん

ありがとうございます。昨シーズンは戦線不振、フランチャイズ稼働問題など皆さまには大変ご心配をお掛けいたしましたし、心よりおわび申し上げます。

スポーツ文化というのは、地域家族仲間世代をつなぐインフラといえる貴重な財産です。今後本拠地は横浜しかないと思っています。昨秋よりの監督、コーチ、選手、職員が一致団結して意識改革に取り組みで行動しております。

村田選手には契約更改のときに言いました。「プロの選手として個人の成績も大事だが、君にはチームをまとめる力がある」と。そしてキャプテンに任命しました。全力疾走でみんなを引っ張ってくれています。私は最高のチームをつくりたい。昨年と違うところは一番は、意識改革ができたことです。戦線集団になった。今年はフォアサチム。全体野球で勝つということです。

今年の横浜ベイスターズは絶対勝つ、みんな本気で。その揺るぎない意思はキャンプから変わっていません。

どんな底からはい上がる横浜ベイスターズが、全選手がフルパワーで戦う姿が、復興を目指す被災者の方々の力になる。そう信じています。被災地の方々の為にも頑張ります。

地元横浜市民の皆さまには一人でも多くの方に応援してほしい。チーム横浜、として戦いましょう。そして被災地の皆さまに勇気と感動でエールを送りましょう。



加地 隆雄(かち・たかお) 2009年10月から横浜ベイスターズ球団社長。1960年電通に入社し、横浜支社に30年在籍。96年から映像制作会社社長。2008年から加地三ツル社社長。D.T.V.水戸黄門などの制作に携わった。千葉県出身。70歳。

応援特集

希望の「星」よ共に戦おう ファンからメッセージ

このたびの災害で、地元で地元のチームを応援できることの喜びをあらためて実感しました。この先ずーっとずーっと横浜・横須賀でベイスターズを応援したいです。

そしてベイスターズと一緒に被災者の方々の復興のお手伝いをしていきたいので、今まで以上に応援がんばります☆

(横須賀市、会社員、女性、34歳)

仕事がシフト制の私は昼間の開催がこの上なくうれしいです。今年はBグループなんて謙虚なことを言わず、どうぞガンガンAグループへ行ってください！たくさん浜スタへ応援にいきます！

(茅ヶ崎市、販売、女性、25歳)

来年少も横浜でベイスターズを見たいと心から願っています。そこで、球団の経営に関わる方へ。平日昼間に試合を行うことで経営状況は非常に厳しくなるものとお察しします。集客促進策の一つとして「60歳以上の方向けの観戦回数券の販売」などはどうでしょうか。選手の皆さんへ。1試合でも多く勝つこと。それしかありません。球団に関わる方全てが来年仕事がなくなるかもという危機感を強く持って、全力で頑張ってください。

(横浜市旭区、自営業、男性、41歳)

横浜ベイスターズが最高の試合をしていれば、デーゲーム、ナイター関係なく、ハマスタが横浜がそして全国の横浜ベイスターズのファンが盛り上がり、全国に勇気を与えられることは間違いありません。

(横浜市内区、学生、男性、20歳)

3年連続最下位、90敗。こんな最悪な状況だったベイスターズが今年日本一になることで、どんな状況でもあきらめなければ、絶対に道は開けるんだという希望を与えることができると思います。

(横浜市内区、学生、男性、20歳)

こうなったらファン層の改革しかありません。昼間に足を運べるのはお母さん方ですから、できる限り選手との距離を縮めて、アイドルをつくり上げることで。例えば下園選手などのイケメンに協力してもらい、とにかく球場に来て野球以外の楽しみをつくらせようしかりません。まずは今年を乗り切るために球団とファンが一体となってがんばりましょう。

(藤沢市、会社員、男性、38歳)

ハツラツとした高校生に負けずプロの底力を見せてください。試合を見に行くことはできないけどアメリカより応援しています。

(米國、アプリケーションアナリスト、女性、37歳)

12球団で唯一、チーム名に「星」を頂く横浜ベイスターズ。今こそ希望の星となって、傷ついた日本を照らしてほしい。

我々ファンも共に戦おう。

2011年の開幕を見ることなく旅立った、たくさんのプロ野球ファンの仲間たちの分も。

(横浜市青葉区、会社員、女性、44歳)

プロ野球界は大きな使命を帯びました。甲子園大会を見て、多くの方が野球を待望していることが分かりました。プロは以上の求心力がある。被災した人たちは肉体的にも精神的にも苦しい日々でしょう。野球の話題で精神の安寧を得られればいいと思います。

ここでも増して白熱してはならない困りますが、何年かのハイスターズ球団には、迷走を続けている印象を感じます。優勝メンバーをどぞと出し、あれでこれを入れ替えていこう、特色ある選手を育てていこう、という時代はいつの時代も、チームをくくれるキーワードがありました。決してプラスだけではなく「大逆転」だったり、「機動力野球」や「マシンガン打線」を売りにした時代もありましたが、今はキーワードがありませんが、無理やりではなく、自然発生的にキーワードが出てくると、人の口の端にも上りやすくなると思います。

戦力面では、三浦をローテーションの6番手に持っていないかと。西武の西口のように、いまでもおすかりしてはあげません。もう二人は

客席から相手を凌駕

石川です。これまで乱暴な言い方ですが、よきに行ったり一軍寄りです。渡辺が地方のある選手が入って相違無くいってほしい。一度も二夜もむけてほしい。しめたものだからという気がしています。

中日の総合監督が「村田と吉村が凡打で走らないと、相手は焦らない」と言っていました。今季、村田から愛をもらってほしい。効果が出てきますよ。

横浜スタジアムでは、阪神戦などでビジターの客の方が多いという、他にない現象がある。今季はキャッチャーと野手との客席の割合を調整したい。野球を客席から相手客席に運ぶという。野球が行われる土地の活気を演出してほしい。

漫画家

はた山ハッチさん



はた山ハッチ (はたやま・はっち) 本名島山秀樹。漫画家、タレント。1988年から本紙に「はた山ハッチの顔は!!」連載。一部作品では、やくみつるの名前で執筆。桐蔭学園中学、同高校を経て、早大卒。東京都出身。52歳。



私にとってのベイスターズは地元愛です。横浜の球団だからここののが大きい。ベイスターズのブランドは横浜そのものです。私は小学校のときから男の子たちに交じって野球をやっていたので、球場にも父に連れて行ってもらったり、みんなで見に行きました。

昨年秋、球団売却の話を聞いたときには、まさか耳を疑いました。父は元町で「ベニス・プレス」というスポーツバーをやっている。ベイスターズの選手もよく来てくれます。試合も放映して盛り上がりつつありますが、このままでもベイスターズを失ってしまうと、すごく焦りを感じました。そういう意味では、シヨックだった半面、ファンに自分たちの球団をちゃんと支えないとい

球場にGO
行く!!
グッズを買おう!
心をおかそう!!

球場で気持ち一つに

私がいよいよ自覚が芽生えたと思いません。

やっぱりプロ野球を支えるのは小学生。1998年は中学生でしたが、優勝を見せられて盛り上がりました。今のチームを救うには大人たちのお金が必要ですが、横浜にずっととどめるには子どもたちをもっと熱くしないといけないと思います。そのために選手が学校行って直接あれがあったり、いろいろなイベントでつながりがないと、「お父さん連れてって」とはならないと思います。

そして女性の意見ですが、ベイスターズは女性用のグッズがかわいくないんです。グッズを買うのは女の子。だから女性が欲しい物を作ってください。買えば球場で披露しなくありません。

私が少年野球で最初に教わったのはチームワーク。誰が見ても仲のいいチームは分かりますよ。気持ちが一緒になっているのを感じると、ファンも気持ちが一つになると思います。今は球場に行きましょ。テレビでスポーツバーを見ていても面白いですが、熱い気持ちで絶対に選手にはありますから。

タレント SHELLYさん



SHELLY (シェリー) タレント、司会者。スカウトがきっかけで14歳でモデルデビュー。ファッション誌のモデルやテレビ、ラジオでも活躍。特技はダンスと通訳。日本酒の利き酒師の資格を持つ。父が米国人で母は日本人。横浜市出身。機子高卒。26歳。